

# RadioDays



## ラジオデイズ

声には、  
人の体温があり物語がある

月刊「ラジオデイズ」11月号（通巻第30号）  
2009年10月28日発行  
[発行人] 赤塚祐一郎  
[編集人] 大森美知子  
[発行所] 株式会社ラジオカフェ  
東京都新宿区新宿1-6-5 シガラキビル6F  
Email: info@radiodays.jp FAX: 03-5356-8281  
http://www.radiodays.jp

11

November Edition  
2009, vol.30  
Free of charge

## この人の声が聴きたい◎11月 福岡伸一さん（生物学者） まるで大きな川の 流れのように



中学生の頃、理科の授業でDNAというものの存在を知った。教科書の構成がよかったのか、教えてくださった先生が上手だったのか（たぶんその両方のおかげで）、私は、ワトソンとクリックによる20世紀最大の発見のひとつを堪能することができた。

二重螺旋の発見がスリリングな印象を与えたのは、彼らがきわめて演繹的な方法でDNAの構造を探索していたことにもよっている。ワトソンとクリックは、みずから実験を行ってデータを収集しようとはせずに、針金やボール紙で模型をつくりながら、ああでもないこうでもないと際限のない議論を繰り返していたが、その議論に決定的なジャンプを与えたのが、ロザリンド・フランクリンによるDNAのX線写真だった。フランシス・クリックはその写真を見て、彼らの推論を実証する事実を見出した。そうか、2本のDNA鎖は反対方向を向きながら互いに絡まり合っているに違いない！しかし、写真を撮影したロザリンドはその「覗き見」を知らなかった……。

このような経緯は福岡伸一さんの手にかかると実にみごとなものとして再構成される。その味わいはまるで極上のミステリーだ。『生物と無生物のあいだ』は、自然科学の書籍としては異例のベストセラーになったが、テーマの面白さに加えて福岡節の魅力に多くを負っているのは間違いない。ところで、福岡さんの生命思想の根幹にある「動的平衡」というコンセプトもたいそう

魅力的である。その起点は、一九三〇年代にルドルフ・シェーンハイマーが標識化したアミノ酸を使ってネズミの身体変化を調べた実験だ。外からやってきたアミノ酸は、意外なこと、分解されつつ再構成されてまるでネズミの中を通り過ぎていくようだった。

福岡さんはこう書いている。「しかし、通り過ぎたという表現は正確ではない。なぜなら、そこには物質が『通りすぎる』べき入れ物があったわけではなく、ここで入れ物と呼んでいるもの自体を、通り過ぎつつある物質が、一時、形作っていたにすぎないからである。つまり、ここにあるのは、流れそのものでしかない。」

この「流れ」は、生命が分子レベルでみずからの秩序を絶えず壊しながら再生する仕組みである。生命はDNAによって自己複製するが、もう一方で不断の創造的破壊のさなかにある。シェーンハイマーは、ワトソンとクリックとは別の新しい生命観を提示していた。しかし、なぜ、生命は流れなのか？

福岡さんは、シェーンハイマーの発見をふまえながら、「動的平衡」という考え方でその最奥の秘密を描き出している。

ご興味のある方は、ぜひ、福岡さんの出演した「ラジオの街で逢いましょう」と続編「プラスター」を聴いてください。生命が実は、とても大きく動的平衡であり、「全体」であることが手にとるようにわかるはずですよ。

（ラジオデイズ・プロデューサー 菊地史彦）

ラジオデイズは、文芸・対話・詩芸を三本の柱に、声のもつ魅力に特化した音声コンテンツを制作し、ダウンロード販売するWebサイトです。飄逸で含蓄のある随筆、瑞々しい感性の横溢する詩歌や小説の朗読、個性的な対話者たちの真摯な言葉の応酬から生まれる知的交歓、粹と人情の落語や講談などなど、大人のお楽しみにたえる魅力的なコンテンツが満載です。

ただいま入会随時受付中！

会員登録（年会費無料）にならると、期間限定の無料コンテンツがお楽しみいただけます。サイトでは、声の魅力を凝縮したコンテンツのすべてが試聴できるほか、演者のプロフィールやコラムなど読み応えも十分です。どうぞお立ち寄りください！  
<http://www.radiodays.jp>

### 〈対話・放談〉

人気メルマガでおなじみ、田中宇氏の国際ニュース解説『世界はこう読め！Ⅰ・Ⅱ』、作家・瀧川鯉昇師匠の癒し系連続トーク『鯉昇の昼寝まくら』、ムッシュかまやつさんや最後のインタビュールになった故加藤和彦さんなど、ミュージシャンにお話を伺う『Music Talk』、善尚中さん、福岡伸一さんなど知的なゲスト満載のラジオ番組の番外編『ラジオ街アラスー』が好評。さらに、慶應MCC開催の『夕学』のなかから、各界の第一線で活躍する文化人による講演を厳選してお届けしています。インド哲学の碩学・中村元先生の名講演も配信開始しました。

### 〈文芸〉

作家の関川夏央さん、小沢昭一さん、詩人の清水哲男さんなど多彩な解説者を迎えた『声のエッセイ』コレクションが評判。また、『声の詩集』シリーズでは、女優鳥丸せつこさん朗読、詩人正津勉さんナビゲートの『詩人の愛』Ⅰ・Ⅱをお届け中。女優有馬稲子さん朗読の『水仙』や、さらに本初初となる落語家・入船亭扇辰師、柳家三三師朗読による江戸弁で聴く『ゴゴリ』『外套』『鼻』も発売中。そして、大宰治生誕百年のいま、松平定知さん、山根基世さんなど熟練アナウンサー朗読の『人間失格』『斜陽』他も聴きこえた二十分です。

### 〈話芸〉

ラジオデイズ収録の新鮮なオリジナル音源約三百本をお届け中。時代に磨かれた古典を自家業籠中に現代に演じ替えた作家たち。そして、時代の流れから湧き出た、かつて語られたことのない新作に鑄を削る作家たち。ライブ音源だけに一期一会の斬に出会えます。不定期ですがラジオデイズイチャオシの作家さんの演目を無料ダウンロードにて提供していきますので、毎日覗きにきてみてください。まずは、試聴ボタンを。

# 柳家喜多八独演会

【日時】11月17日(火)午後6時45分開演(午後6時15分開場)

【場所】お江戸日本橋亭(三越前)

すべての落語は新作として生まれ、生き残ったものが古典になる……。時代の流れから生み出された一席の斬を、口演を重ねながら書き換えていき、自家薬籠中に演じきる現代の斬家たち！ 古典の骨をしっかりと押さえながら、人間普遍の心情と現代人の機微にこたえる緩急自在な話芸、凄みのある濁声から艶やかな張りのある声まで、柳家喜多八の高座を存分に味わってください。

## 柳家喜多八

(柳家喜多八、またはO)

柳家小三治門下。平成五年、真打昇進。学習院大学卒をネタに「柳家喜多八殿下」を自称する。滑稽斬も人情斬も幅広く。愛をもってこなす実力派。「清く、気だるく、美しく」を地でいく、無愛想で脱力した「出」とは裏腹の、気合の入った高座に、竹馬履いて屋根上がっちゃってる落語ファンが目下急増中。演者の少ない珍しい斬も多く、芸域は広く深い。



## 春風亭一之輔 (ゲスト)

(しゅんぷう、またはいちのすけ)

春風亭一朝門下。平成一六年、二ツ目昇進。大らかな語り口に定評があり、会を開くと多くのファンが駆けつける。斬はもちろんだ、何気ない話題から発展していくマクラも滅法面白く、目の離せない存在だ。三遊亭兼好師に「勝新太郎に似てる!」と評された、磊落で愛嬌ある風貌も魅力のひとつ。平成二〇年、第四回東西若手落語家コンペティション優勝。



# 明烏い話

連載第32回 本田久作

貧乏坊主の西念が死ぬ間際に貯め込んだ二分銀を餅で包んで食べてしまい、その挙げ句頓死する。それを盗み見ていた金兵衛という男が西念の死骸からこの金を奪い取り、それを元手に黄金餅という餅屋をはじめたいという繁盛した。おなじみの『黄金餅』の一席である。

最初志ん生の録音で聞き、続いて談志の聞き、一番最近だと一之輔のものを聞いた。いつ聞いても不思議に思うのが、西念の腹を割いて餅にくるまれた金を奪った金兵衛が何故わざわざ餅屋を開業したのかということだ。金兵衛がもともと小商いながらも餅屋であったとか、そうではなくとも米搗きの下働きか何かで少しは餅に縁のある仕事をしていたのであれば、大金を手にしたのをきっかけに餅屋を開くのは理解できる。だが、金兵衛のものと商売は金山寺味噌売りだ。餅とはまるで関係がない。金兵衛にとって唯一餅と関わりがあるのは、餅の中に詰め込んだ金を盗んだということだけである。どうせ餅にくるまれた金を元手に商売するのであれば餅屋がよからう、とでも考えたのだろうか。だが、それでは趣味が悪すぎる。もしも客が真相を知ったら、絶対にこの店の餅は買わないだろう。そもそも餅にくるまれた金を元手に商売をはじめた店の屋号が黄金餅というのは、趣味が悪いのを通り越してグロですらある。爺婆の貯め込んだなげなしの金を振り込め詐欺で騙

し取り、それを元手に「振り込め院」という養老院を作って大儲けをするのと同然だ。罰は当たっても、後生のよいはずがない。それなのに、『黄金餅』では金兵衛はわざわざ餅屋をやり、その店に黄金餅という名前までつけている。何故か？

談志はさすがに談志らしく「野郎の菩提を弔ってやる」ためだとの斬の中で一言さりげなくつけ加えている。つまり談志の解釈によれば、黄金餅という餅屋を経営することは文字通り黄金餅を食った末に死んだ西念の死後の冥福を祈ってやることを意味する。これはこれで傾聴に値する解釈だが、私はそれよりもっと呪術的なものを感じるのだ。

金兵衛は本来ならば決して手にしてはならない金を元手に商売をはじめることになった。そのことを一番承知しているのは金兵衛自身であり、しかもそのことは他の誰にも言えない。言えれば軽蔑されるだけではなく、そのような不浄な金を使ったということ、金兵衛は世間からつまはじきにされる。金兵衛は自分が穢れていることを知っていたのだ。知っていたからこそ、穢れを払うために何かをしなくてはならなかった。それが、餅から奪った金を元手に商売をする時にあえて餅屋を選び、しかもその餅屋に黄金餅という名前をつけるということであった。こういうやり方で敢えておのれの犯した罪を間接的にさらすことによって、穢れを取り払った。黄金餅という屋号の餅屋を経営することは金兵衛にとっては穢ぎであったのだ。そして、その穢ぎの甲斐あって金兵衛についていた穢れは落ちた。その証拠に金兵衛の経営する黄金餅は見事に繁盛した。

『黄金餅』同様、使ってはならぬ金、しかも人の命に関わる金を元手に商売をはじめ、結局のところそのせいで破綻する斬が『もう半

分』である。『もう半分』では居酒屋を経営する夫婦は爺さんから金を盗みっぱなしで、その後のフォーロウを行っていない。故に彼らは罪と爺さんの死によって穢れたままの存在となり、最後にはその穢れにふさわしい罰を与えられることになる。もしも爺さんから金を奪い取った夫婦が、新たに経営する居酒屋の品書きに「もう半分酒」という新メニューをつけ加えていたら、生まれてきた赤ん坊は「もう半分」とは言わなかっただろう。何故ならその言葉はすでに新メニューの名称として消費されてしまっているからだ。

●ほんた、まじやうさく

一九〇六年大阪府生、落語作家。二〇二〇年の「私の遺言」が国立演芸場台本募集佳作受賞以来、落語、漫才など新作台本募集の賞を毎年総ナメの業界巨匠の新進作家、主受賞作「玉手箱」(国立演芸場台本募集優秀作)、「僕の葬式」(按摩の夢「幽霊差支」)いずれも落語協会優秀賞など

## 私の遺言 ばなし 参拾

夢月亭清麿

### き 『黄金餅』

テレビはまだ家にはなく、ラジオの時代、小学校二、三年生の頃、志ん生師匠のこのネタを聞きました。お金の隠し方、取り出し方、子供には刺激が強過ぎます。興奮してなかなか寝つけず、暗闇のなかで何度も思い起こしました。あの夜落語という宇宙を体験したようです。

### 式 『ねむり姫』

七里圭さんが監督した、シニールで繊細な実験精神あふれる映画が『ねむり姫』です。上映イベントで、この作品にインスパイアされた落語として、実演しました。落語のワクを思いきりはみ出してみました。

### 参 『千住詣り』

具体的な地所にこだわった落語作りを目指しています。東京23区や山手線全駅制覇が夢です。そうした作品群のなかでの自信作なのですが……。

# こみちが行けば

女流二ツ目の修行日乗②



柳亭こみち



柳亭の前座とかけまして「冷蔵庫」ととく。その心は「食料を大量に収めます」。

柳亭は目上の方に勧められたことは断ってはいけ  
ない。何か頂戴したら「ありがとうございませう！」  
喜んで受け取る。「これ食うか?」「はい! いただ  
きます!」美味しそうに食べる。これが鉄則だ。

食べ物についてはお客様から「若い方はお腹すい  
てるでしょう」と勧められることもたびたび。打ち  
上げで各テーブルの残り物を食すのも前座だ。師匠  
後に幸せな心持ちで出かけ、外ですぐ馳走になる  
ことも。でも残してはいけない。だから食べる。「お  
腹いっぱいです」の台詞は前座の辞書にない。体の  
都合を自己申告することは、決して許されない。

人間若くが年かさだるうが、胃袋が大きい人  
は大きく、そうでない人はそうでない。胃袋の限界  
を超えて食べ続けたらどうするか。吐くしかない。  
冷蔵庫も無限ではないのだ。体が小さく胃袋も相応  
の私は、食べて吐いて食べて吐いて、これを繰り返  
した。

その日は突然やってきた。何を食べても胃が受け

つけない。激しい嘔吐と下痢。胃カメラを撮ると胃、  
食道、十二指腸に潰瘍ができていた。前座二年目の春  
食べ物をいだけるのはいつの時代も幸せなこと。  
食事を勧めることも、いただくことも悪くない。悪  
いのは私の胃袋。続きはまた次回。

●りょうてい・こみち  
社会人生活を経て、平成15年柳亭燕路に入門。18年11月二ツ目昇進。趣  
味は長門。特技は日本舞踊、香妻流名取(香妻香美)。落語協会野球部  
チームR所属。

## 味な脇役・話芸のきまり文句

連載第30回

# 貧困

松井高志



貧乏とか困窮とかいっても、現代のそれと  
昔のそれとはまるで違うであろう。まして  
落語や講談の中の貧しさは、はなしを面白く  
するためデフォルメされた設定の一部だと思  
われるから、そこにはファンタジックな雰囲気  
気さえ漂っており、聴き手は貧乏な登場人物  
に共感しながらも、現実の貧困と、はなしの  
中の貧乏を無意識に区別している。

落語でおなじみの慣用表現に、

稼ぐに追いつく貧乏なし

というのがある。仕事に精を出せば貧乏で  
苦勞することはあり得ない、の意。「芝浜」  
なんかでよく聞けるのだが、これ、現代では、  
「仕事が出来れば稼ぎようがないではないか」  
というクールなツッコミをもらいそうな諺だ。  
諺には、大まかに分けて、世間のカラクリ  
を簡潔に表現したもの、法則系のもの、だ  
からこう処するべきだ、法則系のもの、二種  
があるが、貧乏とは何か、を表現した前者系  
のものには、

### 貧は諸道の妨げ

というのがある。貧しいと何をすることも不  
自由だ、という法則をいっている。これは貧  
しさゆえに起こる事件を扱う講談のたぐいに  
多く出てくる。

とりあえず貧苦に処するには、当座考え方  
を変えられない、というので、やせがまん  
を勧める教訓系諺もある。たとえば、

### 食わず貧菜(高枕)

は、いわゆる「清貧を楽しむ」こと。「風  
流は貧しきにあり梅の花」などという句もこ  
れに近い。「世の中は悟れば無一物だ。気を  
軽く持つれば、食はねえでも腹は満いやう  
だ」(「万金丹」三代目蝶花楼馬楽口演)。歯  
をくいしばってエンジョイするのである。な  
んだか泣かせるぞ。

### ●まじい・たかし

一九六〇年愛知県生、月刊誌編集者を経てフリーライター。著書に「入  
生に効く! 話芸のきまり文句」(平凡社新書)、「ナンドク」(難読漢字自  
習帳)(バジリコ)、「江戸に学ぶビジネスの極意」(アスペクト)など。「話  
芸・きまり文句」辞典サイトは <http://wageldon.com/oginomy.com/>

microSD版  
**ラジオデイズギャラリー**

「語り」を持ち歩こう!  
いま旬の柳家の息づかいもリアルな必聴落語の数々、  
現代がよくわかるエッジの立った国際時事解説が  
こんな小さなカードにみっちり満載です。

<p>●落語永久保存30選 合計収録時間:約20時間09分 ¥9,900.-</p>	<p>●爆笑演芸会33選 合計収録時間:約18時間24分 ¥9,900.-</p>
<p>●特選現代落語35選 合計収録時間:約14時間11分 ¥8,800.-</p>	<p>●田中宇の「世界はこう読め!」 合計収録時間:約11時間27分 ¥3,900.-</p>

# 発売中

たとえば...

ラジオデイズギャラリー入り  
microSDカード

microSDカードが使える携帯音楽  
プレーヤーでお手軽に楽しめます。  
パソコンで聴くには、カードリーダーを  
ご使用ください。※携帯電話では再生できません。

Voice-Trek  
DS-750

お問い合わせ: (株)ラジオカフェ  
<http://www.radiodays.jp/>  
メール: [info@radiodays.jp](mailto:info@radiodays.jp) Tel.03-3341-1230

第31回オリンパスモビー寄席

三遊亭白鳥独演会

【会場】お江戸日本橋亭「木戸銭」2800円（前売2500円）  
 【時間】午後6時45分開演（午後6時15分開場）

●12月15日(火)

二遊亭白鳥・「ゲスト」二遊亭ぬう生

オリンパスモビープレゼンツ

「鉄博寄席」(第1回)

【会場】鉄博ホール（鉄道博物館内）大倉

【木戸銭】無料（鉄道博物館入館料のみ）【要予約】

【時間】午後2時開演（午後1時30分開場）

●2010年1月9日(土)

柳家小ゑん・古今亭駒次  
 三遊亭遊雀

※予約申込受付中。ラジオデイズ URL <http://radiodays.jp> もしくは、予約受付専用電話・011-3344-1110より、先着順です。

ラジオの街で逢いましょう

ラジオデイズでは、声と語りの魅力を求めて、深夜のラジオ番組も制作・放送しています。

お相手は、ラジオデイズプロデューサーの平川克美、菊地史彦、伊藤博、大森美知子が務めます。これまでの放送分は、ラジオデイズサイトにストリーミング放送中。さらに、ポッドキャストでも配信しています。どうぞ真夜中の語らいに耳を傾けてみてください。

<http://www.radiodays.jp>  
 インターFM 毎週日曜日の深夜23時から23時半まで。

今後の放送予定（深夜のお客様）

11月1日 児島玲子（フロンテア）

8日 櫻井秀勲（作家・編集者）

15日 馬場功淳（コロン代表）

22日 中塚翠濤（書道家）

25日 辰巳満次郎（能楽師）

神無月の落語会

神様たちが出雲へ会議出張中の神無月、第二九回オリンパスモビー寄席は（一〇月二三日）、立川談笑独演会です。初お目見えの牛込筆筒区民ホールには300名を超えるディープな談笑ファンが集まり期待される開演です。開口一番、お馴染み春風亭ぼっぼさんのネタは「手紙無筆」、可愛く緊張を和らげてくれました。

さて、初っ端から登場は談笑師匠、「今日は三席やります」と観客を喜ばせます。ネタは「ガマの油」ですが、並ではなくスペイン語版で圧倒、いきなり爆笑の渦。迫力が違いますね。

次に本日のゲストは寄席で人気の漫才コンビ・ロケット団。一見インテリ風の三浦さんが山形弁でボケまくり倉本さんがツッコミを入れる、絶妙なテンポの掛け合いはテレビでは聞けない東京伝統のしゃべくり漫才。若手では貴重な存在です。

続いて談笑師匠再登場、さっそく「金明竹」を始めますが、津軽弁での口上で観客を煙に

巻いだびよくん。古典落語も現代に生きいきと蘇る、まさに談笑独壇場です。

仲入り後、トリはもちりん談笑師匠。ご存じ「シャブ浜」を家元から止められたと言いつつ、家元の得意ネタ「芝浜」に入ります。談笑ファンならずとも落語ファン必聴、古典のいい味を充分に残しながら、斬新な切り口の光る人情噺の名演となりました。内容は聴いてのお楽しみ。

いや〜落語って、ほんと〜に面白い。会場を後にするお客様の顔がみな幸せの微笑みで輝いておりました。（ラジオデイズ寺和尚）



「声」と「語り」をダウンロード!

今が旬の音声コンテンツ満載  
<http://www.radiodays.jp>

今最もブッキング困難な役者を揃えた特別対談。絶妙な話芸と目から鱗の文化対談をお届けします。

●戦後落語論

新作落語の旗手、そして教祖的存在である三遊亭円丈に、新進の落語作家本田久作がからむ。落語ファン待望の新作落語黎明期の真相話が炸裂。



三遊亭円丈

本田久作

●戦後詩人論

戦後作家の中心的存在であり鋭利な批評家でもある高橋源一郎が、生粋の詩人にして川端康成賞の小説家でもある小池昌代と現代詩について話し合う。



高橋源一郎

小池昌代

●戦後マンガ家論

脳生理学者であり京都漫画ミュージアム館長でもある養老孟司と小林秀雄賞受賞の現代思想家内田樹。マンガに一家言あるこのふたりが存分に語り合う。



養老孟司

内田樹

そのほか、面白くて物凄、朗読や落語がいっぱいあります。ラジオデイズサイトによるこそ!

※ご購入や無料ダウンロードには会員登録（無料）が必要です。

「オリンパスモビー寄席」携帯用特別コンテンツ

モビー寄席特別コンテンツでは、モビー寄席やラジオデイズ落語会にご出演いただいた演者さんの情報や音源、最新のラジオデイズイベント情報が携帯電話からお楽しみいただけます。



p@mobe.jp

バーコードで簡単アクセス!

左のQRコードを携帯のカメラで読み取り、メールを立ち上げて撮影写真を添付し送信。  
 ※ドメイン指定受信の設定をされている方は、mobe.jpを追加してください。

月刊ラジオデイズ各号の1ページ目『この人の声が聴きたい』の丸抜き写真、見開きページの落語家さんのプロフィール写真を撮影、メールに添付して送信すると、アクセス先URLが記載されたメールが返信されてきます。



Mobe (モビー) とは?

オリンパス (株) とホスティング・アンド・セキュリティ・インク の共同開発による、携帯サイト作成ツールと先進の画像認識技術によるサイトアクセス方法を月あたり263円〜という低価格でご利用いただける携帯サイト作成サービスです。

個人の方から法人のお客様まで自分専用の携帯サイトを簡単に開設することができます。用途に応じて、クーポン作成やメルマガ配信などのプランもご用意しました。お申し込みは、PCから <http://pdh.mobe.jp> にアクセス!

ラジオデイズの窓から

窓越しの木々も薄っすら色づきはじめ、散歩道にはムラサキシキブの淡い紫の果実が揺れています。爽やかなこの時節、かつて愛読した書物をいまいちど読み返してみたいかがでしょうか。ラジオデイズでは、TBSラジオとの共同企画「新発掘! 語りの巨人たち」として、三島由紀夫、寺山修司、向田邦子など、いまは亡き偉大な作家たちの豊かな感性に満ちた「声」を配信開始です。